

テーマは「変革」

思い切って総社を変えていく
自分たちで考えて自分たちで実行していくまち

4期目にかける思い
フアイト・やる気満々です。物事をもっと大きく動かしていきたい。これまで総社を変えようと言いつつ、実行してきませんでした。現状に満足せず新しい仕組みを作り、さらに変革の路線を歩いていきたいと思えます。

西日本豪雨からの復興
復興には、インフラの復興と心の復興があります。道路や河川の整備などは順調に進んでいる反面、精神的なフォローは始まったばかり。全国の被災地でも心の復興ができていない地域はあまりありません。市が積極的に被災地に赴き、被災者一人ひとりに寄り添って、その人に合った形を共に考え、真の復興に向かって取り組んでいきます。まずは被災して仮設住宅などに住んでいる弱い立場の人の心を豊かにしたいと思えます。復興住宅の建設を着実に進めることで住まいを保障し、不安を取り除きます。

JR桃太郎線のLRT化
来年3月末までに新駅の位置などの案を作成していきたいと思えます。そのビジョンを基に、沿線のまちづくりをどうするかなどの議論をスタートさせていきます。運行本数が増えて、いつ駅に行っても電車に乗れるというのは、都市機能として総社の武器になります。沿線に人が集まれば、新たな産業を呼び込めて雇用が生まれ、税収が増えることも期待されます。

人口増に向けて
現在、総社市は人口が増



住居の確保が被災者の支えになる (写真は昭和仮設住宅)



市社会福祉協議会内のひきこもり支援センター「ワンタッチ」で相談に応じる

観光施策
市内には、全国に誇れる歴史遺産などが数多く存在しています。増やしていることも大切ですが、減っている地域のことでも考えなければなりません。いずれ高齢化が進むにつれて、共同草刈り作業や土木の修繕などが成り立たなくなると、地域も出てくるでしょう。そうした時に地域の課題をどう解決していくか。将来の姿や必要な施策を示すビジョンを作り、人口が減っていく地域でどうすれば生活しやすくなるかを真剣に考えていきます。

総社流独自施策
LGBT(性的少数者)やひきこもり支援、外国人との共生、障がい者千五百人雇用など、総社流施策に引き続き取り組んでいきます。誰もが権利を得て働くことができ、生まれてきてよかったと思える社会づくりに、さらに力を入れていきます。特にひきこもり支援については、総社をモデルケースにして、全国に約115万人といわれるひきこもりの人に対し、メッセージ性をもった施策を展開していきたいと思えます。

市民へメッセージ
これからもっと住みよい総社市、伸びゆく総社市に変えていきます。変革を恐れず共に歩んでまいりましょう。

TOP INTERVIEW

SOICHI KATAOKA



総社市長 片岡 聡一

西日本豪雨からの復興 そして新たなステージへ

片岡市政 4期目

9月29日に告示された総社市長選挙は、無投票により片岡聡一市長が再選。4期目の市政運営がスタートしました。任期は、10月14日から4年間です。

引き続き市政のかじ取りを担うにあたり、身が引き締まる思いです。これまで以上に市民一人ひとりの声に耳を傾け、弱い立場の人に寄り添い、謙虚な姿勢で市政運営を行ってまいります。西日本豪雨からの復興、そしてさらなる総社市の飛躍のため、市民の皆さまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。